

平成 30 年度第 3 回運営幹事会 議事録

作井技術委員会 事務局

石川正紀

平成 30 年 12 月 3 日(月)16:00-17:30

開催場所:国際石油開発帝石株式会社 本社 36E1 会議室

出席者:松井委員長、JAPEX 乗岡、筑井、JDC 末永、前田、JX 田坂、TELNITE 佐藤、INPEX 藤田、石川(敬称略)

欠席者:早稲田大学 古井、JOGMEC 北村、出光興産 三好(敬称略)

当日のプレゼンについては、別添パワーポイント(H30 年度第 3 回運営幹事会)を参照されたい。

議題 1: 報告事項

以下の事項について報告し、承認された。

- 運営幹事・委員・分科会座長の交代(下表参照)

運営幹事の交代

氏名	会社	動向
乗岡孝男	JAPEX	運営幹事就任(菅野氏の交代)

議題 2: 平成 30 年度 各活動報告

- 分科会活動状況

分科会名	近況	次回開催予定
大水深分科会	2018 年 10 月 19 日、第 25 回 実施@JDC 本社	未定
若手技術交流会	2018 年 10 月 5 日、第 7 回実 施@JAPEX 本社。	2019 年春に実施予定

報告後、以下の質疑があった。

- INPEX の大水深分科会委員が転勤となり、委員不在となったため、今回の開催について認知していなかった。今後は、運営幹事に事前に開催案内を送信してもらうよう要請がなされた。若手技術者交流会についても同様。
- HP 委員会からの報告:石油開発 ABC 中に、一部の引用図表の著作権に関する質疑があった。引用元が協会でない物については、著者(長縄秋田大学教授)に照会することとした。
- 同石油開発 ABC 作井委員会担当部分の記事構成・ページ数等について、制約があるのかという質問があった。協会事務局に問い合わせ確認することとした。
※ 後日、作井委員会事務局から協会事務局に問い合わせたところ、構成・ページ数・タイトルとも特段の制約はないとの返答を得たため、担当者と検討の上、現状案より見やすい形に再構築することとした。

- 協会理事会(2018年10月16日、第83期第4回実施)

以下について説明を行った。

- ① 会員の異動について
- ② 石油技術協会賞選考規程の一部改正について
- ③ 会告の掲載について
- ④ 会計報告(平成30年9月末)
- ⑤ 平成30年度秋季講演会について(準備状況報告)
- ⑥ ガルオへの会員管理業務委託に伴う会員への連絡について
- ⑦ 各委員会の活動状況報告
- ⑧ 関係諸団体からの協賛依頼について
- ⑨ その他

議題3:平成31年度春季講演会について

春季講演会に関する以下の事項について報告・審議を行った。

- 開催概要

期日:平成31年6月11日～13日(当日のプレゼンでは12日～14日と報告してしまいましたが、正確には11日～13日でした)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)

- 個人講演投稿要領

申込み期間:平成30年12月下旬～平成31年2月1日

要旨締切:平成31年4月19日

- シンポジウムテーマの検討

事務局から、平成30年度シンポジウムアンケート結果(今後取り上げてほしいテーマ、改善してほしい点)を紹介し、15個の平成31年度シンポジウムテーマ候補を揚げ、運営幹事で以下の通り討議した。討議の際15の候補を、下記7つのテーマに集約した。幹事会后、メールにて各運営幹事に送信し、意見を聴取した上(締め切り12/14)、テーマを1つ乃至2つに選定した上、そのそれぞれの趣意書・原案を事務局で作成し、次回の運営幹事会で決定することとした。

- ① 石油業界と他業界のつながり方(例:地熱、水溶性天然ガス、科学掘削等の業界、3rd Party、AI・IoT業界等との関係についても組み入れ可能)
- ② 低油価環境への作井技術の対応(例:シェール開発、メタンハイドレート開発、老朽化油田再開発・廃坑・廃山技術についても組み入れ可能)
- ③ 過去と現在のパフォーマンスの差(例:過去に学ぶ教訓等、HSEの変遷についても組み入れ可能)
- ④ メディア活動、外部露出、広報活動
- ⑤ 坑井健全性確立への取り組み(例:A)掘削作業、B)改修・仕上げ作業、C)廃坑・廃山作業、D)坑井健全性に関するStandard、E)坑井健全性における新技術(健全性を高めようとする新技術とこれまでの技術を省略化して同じ健全性を確保するための技術)、と組み分けして

World Café 方式の討論会にできるかもしれない)

- ⑥ 知見と情報のマネジメント—技術標準化や AI・IoT への取り組み等
- ⑦ 限界への挑戦—マントル掘削、超臨界掘削、ERD 等

- 討論会形式の検討

平成 30 年度シンポジウムアンケートにおいて挙がっていた、「討論会を会場から参加できるような形式にしてほしい」という意見について討論(概要は以下のとおり)がなされ、討論会形式についても、シンポジウムテーマと同様、事務局で趣意書・原案を作成し、次回運営幹事会で決定することとした。

- 2016 年のような World CAFÉ 形式にしてはどうか？
- 先回の World CAFÉ 形式の場合、グループ分け方法を年代別／業種別にしたが、今回も同様でいいのではないか？
- 講演会前に参加会社に連絡し、参加予定者のグループ分けをしておいてもらう(グループ分けは各社マター)のがよいのではないか？

同時に、これらの意見に対し、World CAFÉ 形式の場合、先回の World CAFÉ 形式討論会時の経験から以下のような反省点も提起された。

- グループを多くすると各グループの発表等で時間的に厳しくなるので、それに合わせてシンポジウム討論テーマ数を絞らなければならない(バランスが必要)。
- 各グループの結論をまとめるのが難しくなる。
- 色々な年代を混ぜると、やはり年配者の意見が強くなってしまうので、年代別にグループ化した方がよい。例えば AI などの若い人が参加しやすくなるテーマも加えて、グループごとに議論してはどうか？

以上